

成隣小学校の 特別支援教育

Q1 支援を求めている子供って
どんな子供？

Q2 気になる子供のサイン
うちの子はどうか？

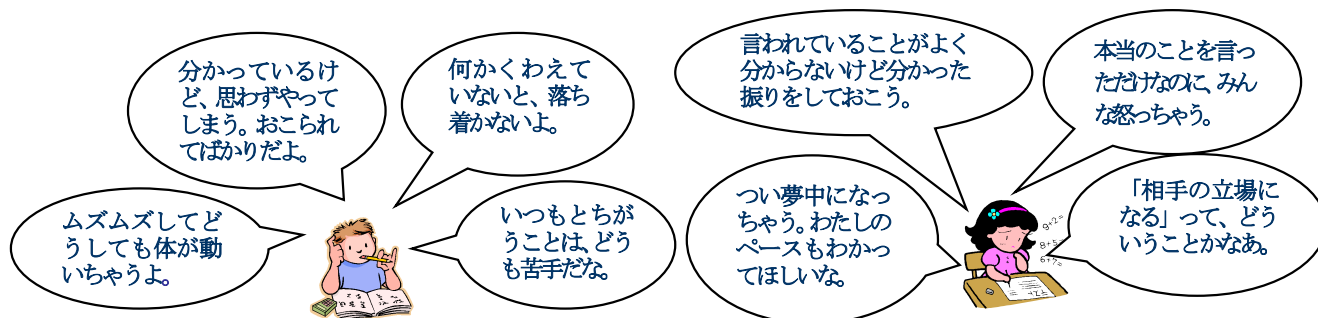
Q3 成隣小学校では
どんな教育支援があるの？

Q4 家庭ではどんなことを
すればいいの？



Answer 1 一見、自分勝手、我がままに見えますが…

■ 支援を求めている子どもは、心の中でこのようなことばをつぶやいています。



■ よく見てみると、このような特徴が浮かび上がります。

感情や行動の
コントロールが難しい

こだわりが強く
新しい経験を受け入れにくい

自己中心的、
わがままに見える

ことばに表されない意図や場の
雰囲気を読み取るのが難しい

これは、しつけや習慣付けの問題ではありません

Answer 2 「ちょっと心配…」と思ったら、チェックしてみましょう

- ① 友達に関心を示さない。☐
- ② 友達とかかわるのが難しい。☐
- ③ 短い時間でもじっとしてられない。☐
- ④ しゃべってはいけないところで、おしゃべりがやめられない。☐
- ⑤ 質問が終わらないうちに答えてしまう。☐
- ⑥ 会話が成り立ちにくい。☐
- ⑦ 周りに気をとられやすい。☐
- ⑧ みんなと一緒に行動ができない。☐
- ⑨ 同じ年齢の友達と複数で遊ぶことを嫌がる。☐
- ⑩ ちょっとした、ささいなことで怒り出すことがたびたびある。☐
- ⑪ 決まっているルールにしたがって遊ぶことが苦手。☐
- ⑫ 約束事がよく理解できない。☐
- ⑬ すぐに泣きだし、なかなか泣きやまない。☐
- ⑭ 家ではよく話すが、学校ではほとんど話さない。☐
- ⑮ ものごとの順序に強くこだわる。☐

特に心配はなさそうだ

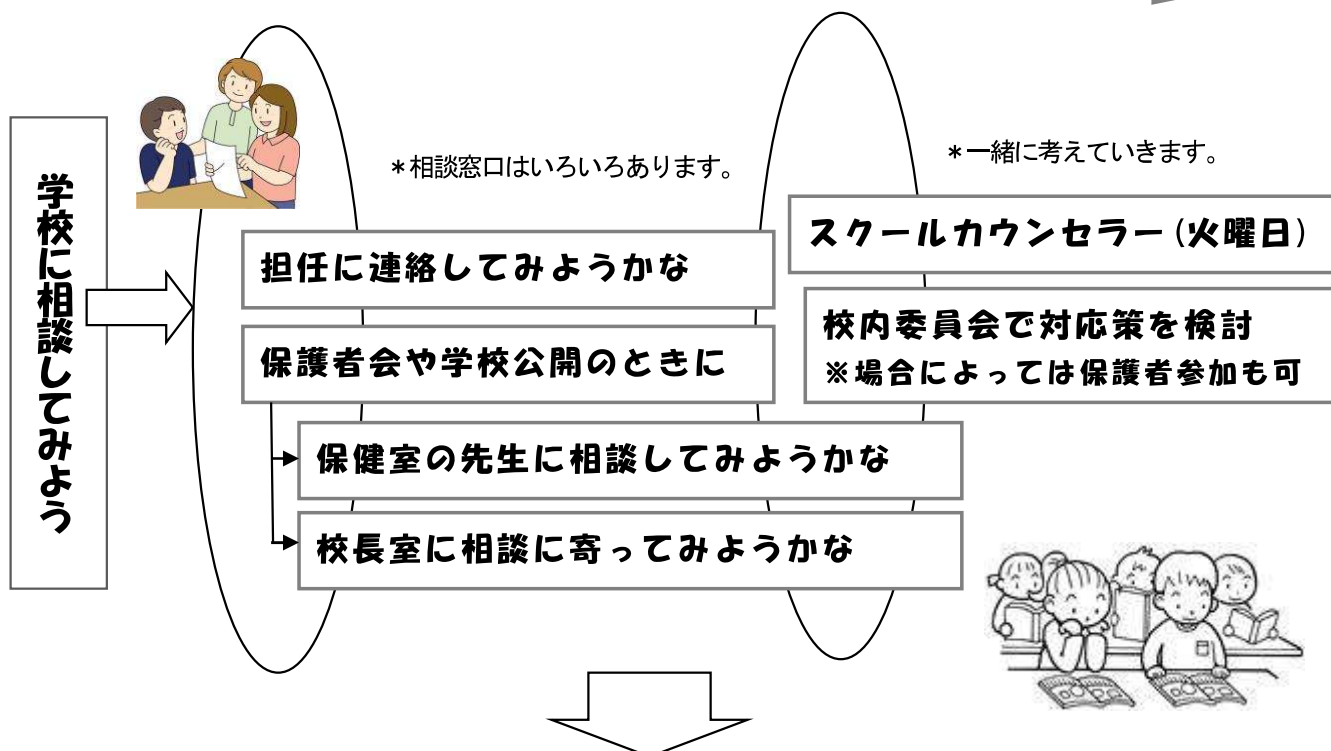
一部に強い傾向があり少し心配だ

日頃の心配と一致している所が多い

このような様子が見られる子供は、45分間の授業や集団のルールにそって行動することにより、「困り感」や「困難さ」を感じています。それは、私たち大人が想像する以上のものようです。

学校に相談しましょう

Answer 3 校内委員会を中心に、その子供の様子に応じた教育支援に努めています



成隣小での教育支援がスタート ※担任だけでなく「組織」で対応します

担任や専科による支援

- 座席や掲示物などの工夫
- 個別の課題の用意

学習支援員による支援

- 授業での個別のサポート
- 個別指導(放課後や長期休業中など)

スクールカウンセラー（心理士）による支援

- 子供や保護者との面談
- 行動の観察とサポート内容の助言
- ※毎週火曜日（事前にご連絡ください）

関係機関との連携による支援

- 教育委員会、市内各機関への橋渡し

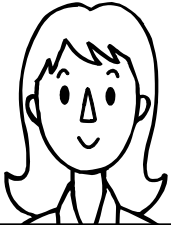
教育支援は特別なことではありません。一人一人にあった学びの場で、個々の力を伸ばしていくことが大切なのです。また、**周囲の正しい理解がこの取り組みを支えます。**



その子供に合った支援を工夫すると、その子供の「困り感」「困難さ」を解消する環境が整い始めるので、子供は徐々にな変わっていきます。子供一人一人の個性・特性に応じて、そのよさを生かしながら成長させる教育を行うために、教育支援は欠かせない取組です。気になることがあれば、ぜひ、学校に相談してください！

Answer 4 ご家庭との連携で効果が高まります！

この特別支援教育には、ご家庭との連携が不可欠です。子供が困ったときの話しかけ方や接し方を保護者の皆様とも共有する必要があります。連携を密にし、子供が安心して「困り感」「困難さ」を相談できる環境をつくっていきましょう。



特別支援教育
コーディネーター

子供たちの生活の基盤は家庭です。よく言われることですが、「早寝・早起き・朝ご飯」がきちんと習慣化されていますか？毎日の生活の中で、集中して学習に取り組む時間が確保されていますか？毎日、子供の話を聴く時間を確保していますか？

子供を認め、励まし、共感できる親子関係を是非大切にしてください。

子供とのふれあいを子育ての土台に

～子育てに「もう遅い」はありません～

(お茶の水女子大学の内田伸子教授が提案している「子育て十カ条」より)



- 一 親子の間に対等な人間関係をつくること
- 二 親は子供の安全基地になること
- 三 子供に「勝ち負けのことば」を使わない
- 四 子供の個性に寄り添い、子供のことばや行動を共感的に受け止める
- 五 他児童と比べず、その子自身が以前より進歩したときに承認し、ほめる
- 六 禁止や命令ではなく、「～したら」と提案の形で対案を伝える
- 七 完璧な・詳細な・隙のない説明や定義を並べ立てない
- 八 子ども自身に考える余地を残す働きかけをすること
- 九 親は「待つ」「みきわめる」「急がせない」で子供がつまずいたときに支え、足場をかけ、子供が一步踏み出せるように、わきから助けてあげる
- 十 子供と共に暮らす幸せを味わおう